

# 株式会社フィックスターズ

## 2025年9月期 決算補足説明資料

2025/11/14

本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものであります。

当該仮説や判断に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等の様々な要因により、実際の業績等は本資料記載の業績予想とは異なる場合があることをご承知おきください。

1

# 2025年9月期 決算説明

### ・ 4期連続で増収・増益、過去最高を更新

- ・ 売上高 : 9,617百万円 (前年同期比+20.3%)
- ・ 営業利益 : 2,578百万円 (前年同期比+11.9%)
- ・ 本社オフィスの原状回復費用に関する見積り増加分の費用計上 (約57百万円)、CVC事業における保有株式の評価減 (約232百万円) の影響により、4Qの営業利益は想定を下回る

### ・ Solution事業 : 着実な成長を続ける

- ・ 自動車業界および半導体業界向けの高速化サービスを中心に旺盛な需要が成長を牽引
- ・ スtock型収益モデルの構築に向けた取り組みを継続、深化

### ・ SaaS事業 : 収益化に向けて各事業を推進

- ・ 「Fixstars Amplify」は3Qの季節変動要因による落ち込みから回復し成長軌道へ
- ・ 「Fixstars AIBooster」及び「Fixstars AIStation」は収益拡大に向けた投資を継続

## 連結損益計算書

主力であるSolution事業の好調が大きく貢献し、4期連続で増収・増益を達成。

連結子会社であったSider社を当期2Qに清算したことにより税金負担が一時的に減少（約1.8億円）し、当期純利益は前年同期比で大幅な増加。

| (単位：百万円)            | 2024年9月期 | 2025年9月期 |       |        |        |
|---------------------|----------|----------|-------|--------|--------|
|                     | 実績       | 業績予想     | 実績    | 前期比    | 業績予想比  |
| 売上高                 | 7,995    | 9,300    | 9,617 | +20.3% | +3.4%  |
| 営業利益                | 2,304    | 2,600    | 2,578 | +11.9% | ▲0.8%  |
| 売上高営業利益率            | 28.8%    | 28.0%    | 26.8% | ▲2.0pt | ▲1.2pt |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 1,494    | 1,900    | 1,945 | +30.2% | +2.4%  |
| 売上高当期純利益率           | 18.7%    | 20.4%    | 20.2% | +1.5pt | ▲0.2pt |

## 売上高

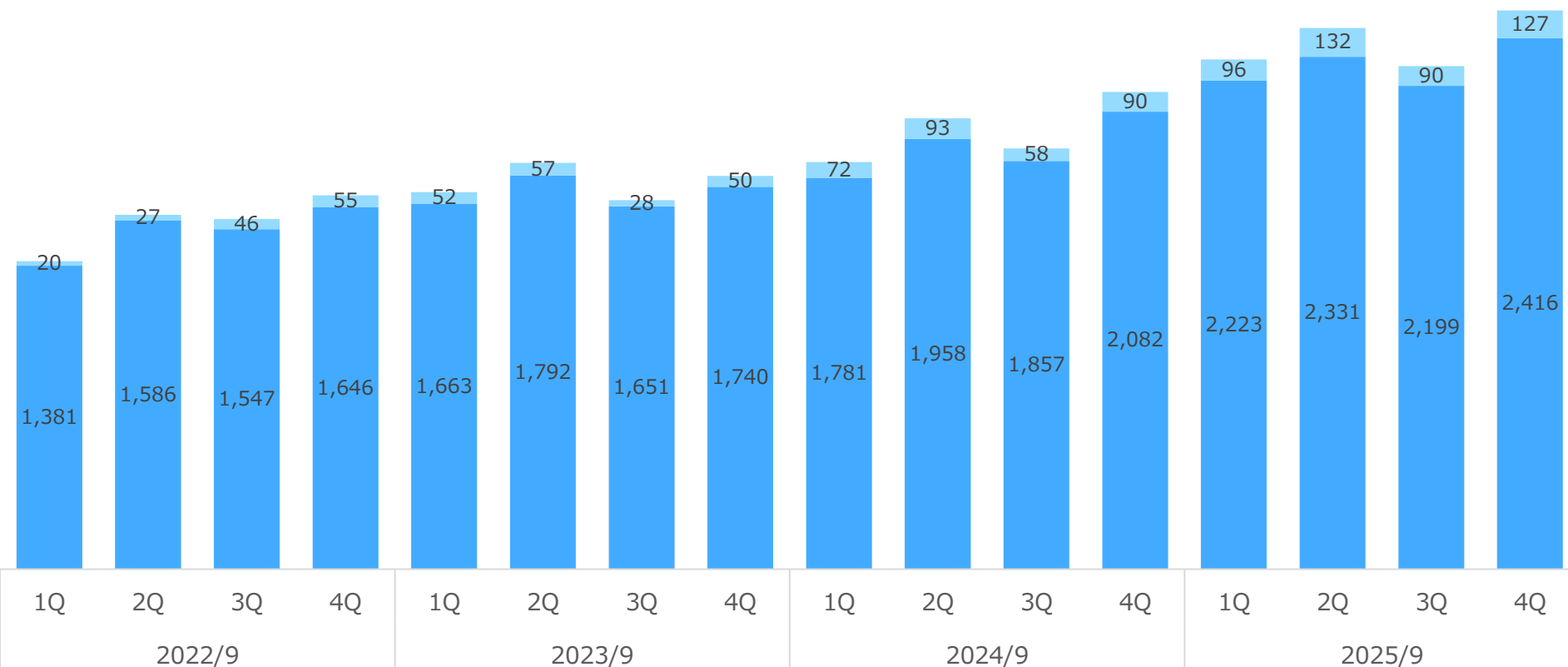
3Qは季節的な要因で一時的に落ち込んだものの、当期4Qは過去最高の四半期売上高を計上。

Solution事業は自動車業界関連の引き合いが特に強く事業成長を牽引し、SaaS事業は3Qの落ち込みから2Q同等の水準まで回復。

■ SaaS事業

■ Solution事業

(単位：百万円)



## 売上高：SaaS関連のストック収益推移

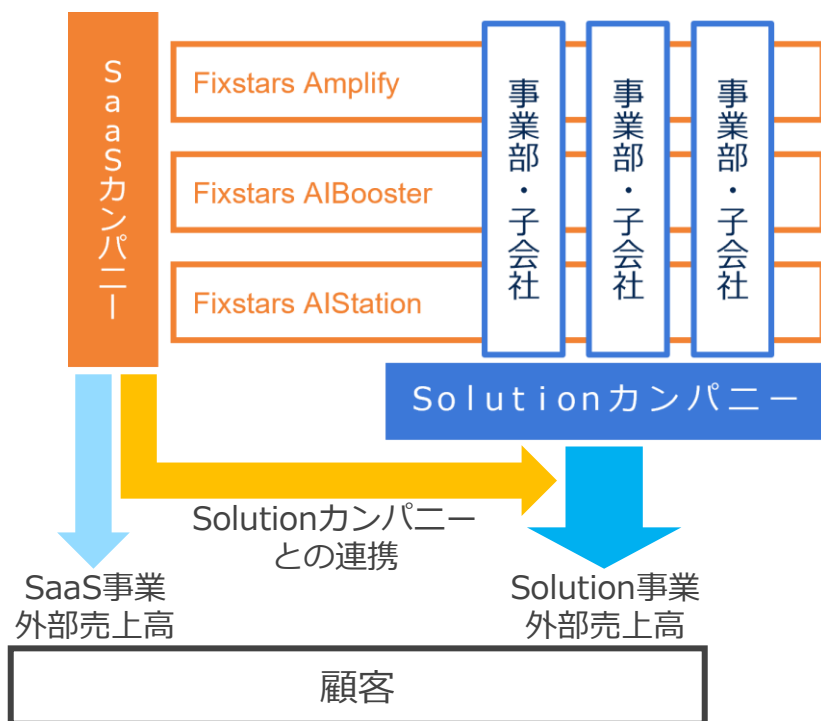
中期経営方針として、ストック型収益拡大への取り組みを強化。

Solutionカンパニーの各組織と連携して、Fixstars Amplify, Fixstars AIBooster, 及びFixstars AIStationを中心としたSaaS製品の販売を推進中。

ストック型収益は3Qの落ち込みから2Q同等の水準まで回復し再びの成長軌道へ。

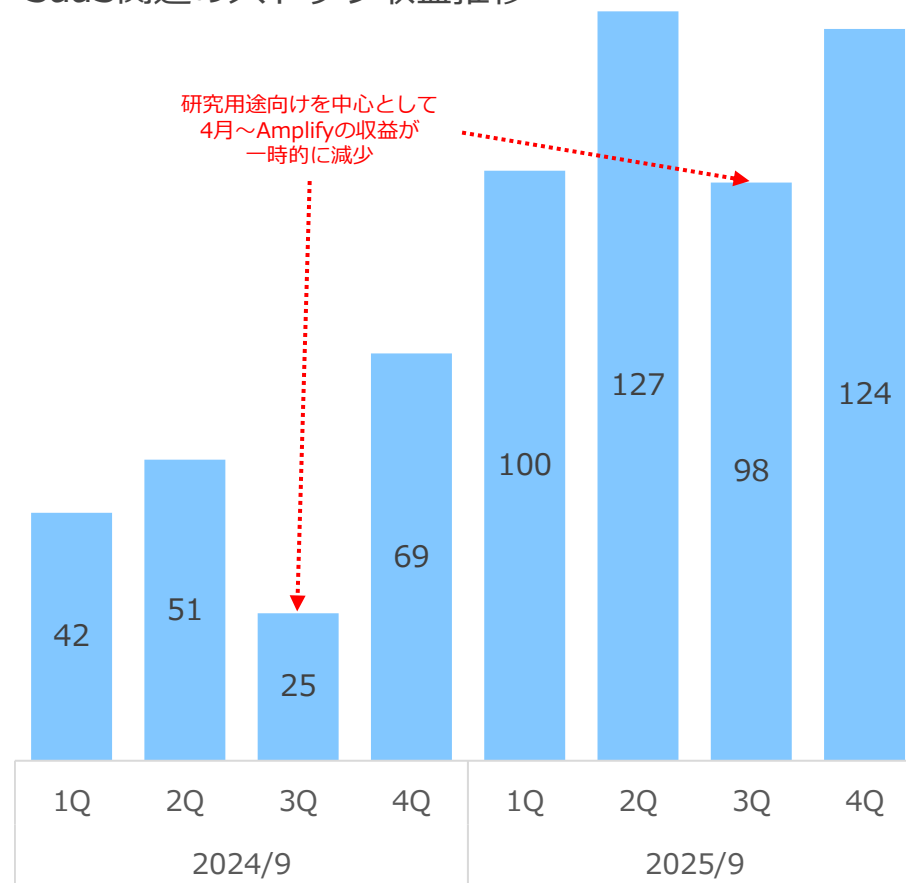
### ストック型収益拡大のための施策

Solutionカンパニーの事業部/子会社に  
横串でSaaSカンパニーの製品を販売する体制を構築



### SaaS関連のストック収益推移

(単位：百万円)



## 営業利益\*

\* 主要なセグメントのみを記載

Solution事業において安定的に収益を獲得し、引き続きSaaS事業へ積極的な投資を実施。

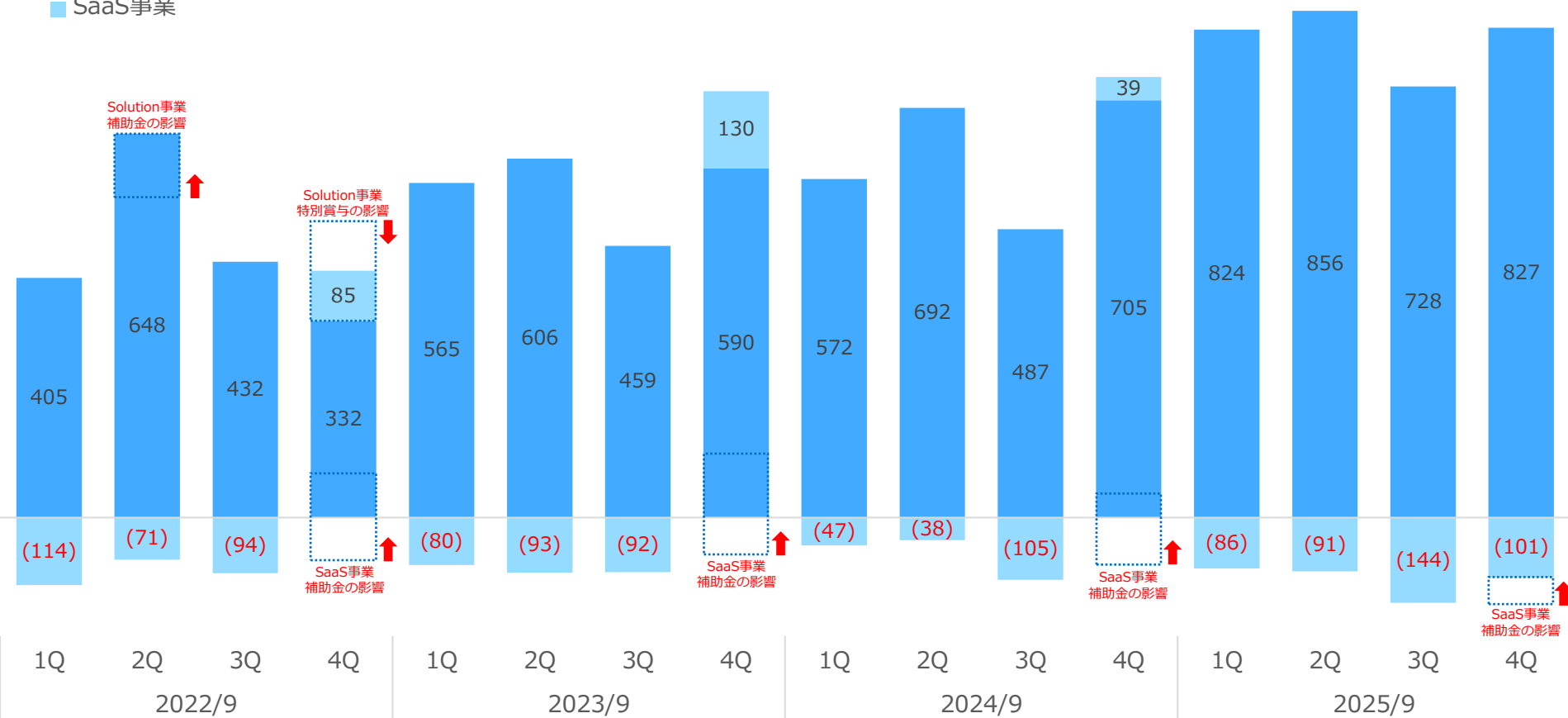
Solution事業は1Q, 2Qに並んで過去最高水準。SaaS事業は生成AI等への投資を継続しており、補助金の影響を除いた赤字は3Qと同程度の水準。

また、その他のセグメント：CVC事業において約2.3億円の株式評価減を実施。

(単位：百万円)

■ Solution事業

■ SaaS事業

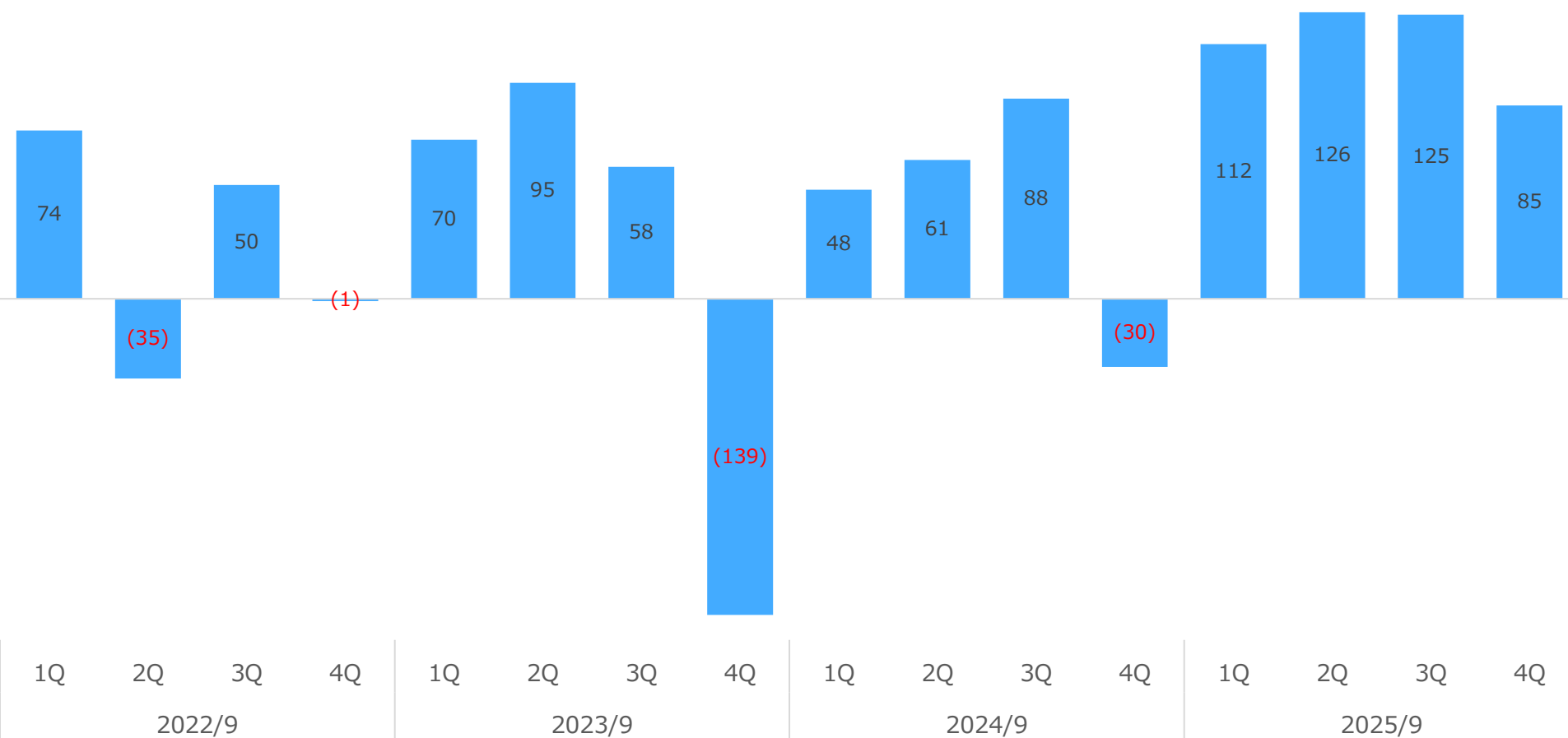


## 研究開発費

AI関連事業の研究開発を拡大。量子コンピューティング関連ではNEDO等からの補助金を活用し、費用負担の軽減を図る。

補助金は金額確定後に研究開発費から控除しており、確定した四半期（各期4Q及び2022年9月期2Q）においては研究開発費の計上額が減少。

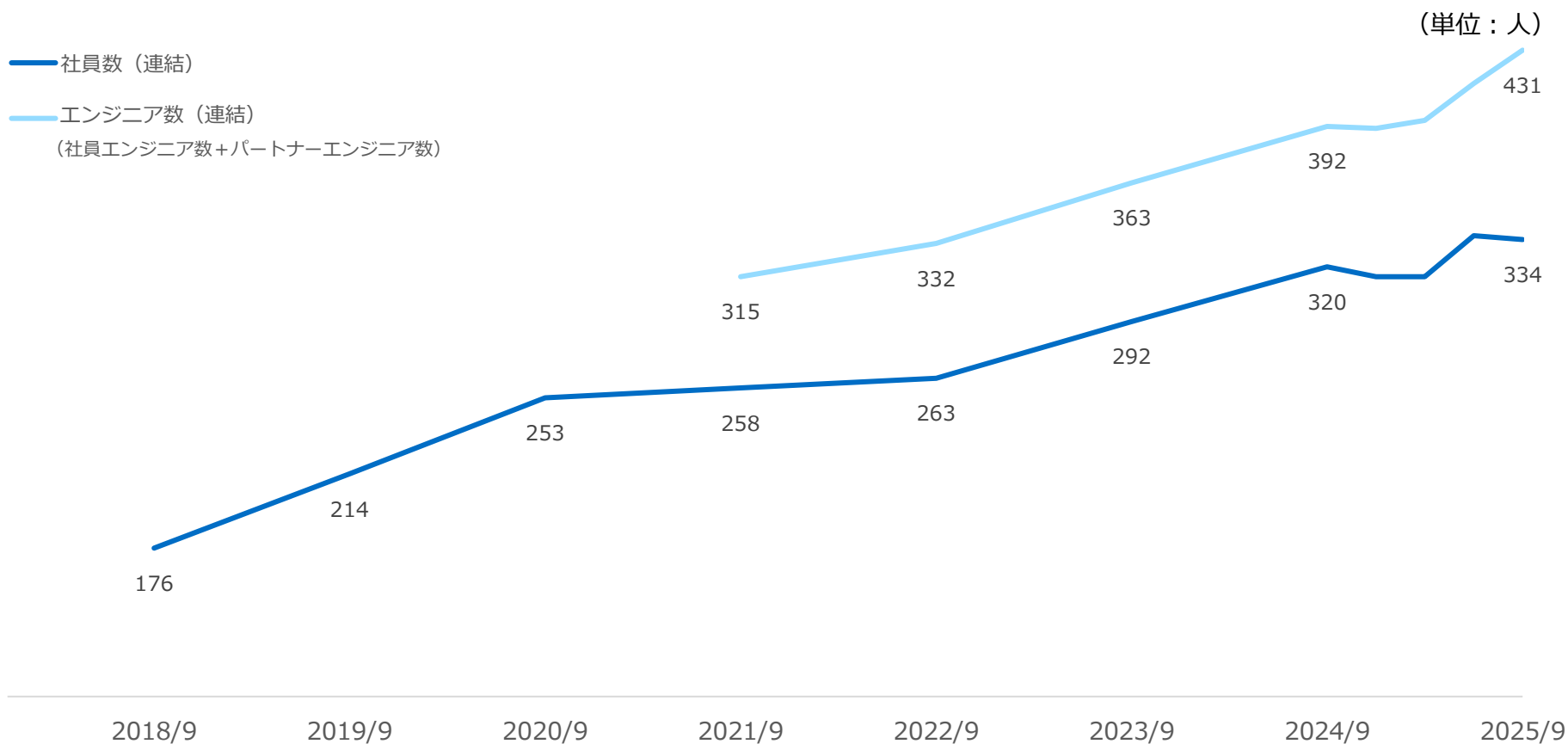
（単位：百万円）



## 社員数・エンジニア数\*推移

\* エンジニア数の集計は2021年9月より

採用環境が変化したことで社員数は想定より少ない純増幅となったが、パートナーを含めたエンジニア数は想定を上回る着地。  
2026年9月期には社員の採用環境改善のため、大幅な大幅な賃上げを実施。



2

## 2026年9月期 通期業績予想

## ・ 売上、営業利益とも過去最高を見込む

- ・ 売上高 : 10,300百万円 (前期比 +7.1%)
- ・ 営業利益 : 2,600百万円 (前期比 +0.8%)
- ・ 当期を更なる成長への土台作りと位置付け、緩やかな成長となる見込み
  - ・ SaaS事業での製品開発にリソースを重点投下
  - ・ 本社移転、大幅な賃上げによる利益への下方圧力

## ・ 中期経営ビジョンの実現に向けて

- ・ 高速化技術を核に、AIと量子コンピューティングによるIPドリブン成長へ
- ・ Solution事業とSaaS事業の連携を強化し、ストック型収益につながる受託開発への取り組みを加速することでストック型収益の拡大を図る
- ・ 「技術」と「経営」がわかる人材育成の継続

## 連結損益計算書・配当金

当期純利益は前期の特殊要因（子会社清算による税金負担減少）の反動や本社移転関連の特別損失計上により減益の見込み。

配当は連結配当性向30%を目安に実施する方針としているものの、一時的な減益見込みのため前期と同額を維持する予定。

| (単位：百万円)            | 2025年9月期 | 2026年9月期 |        |
|---------------------|----------|----------|--------|
|                     | 実績       | 予想       | 前期比    |
| 売上高                 | 9,617    | 10,300   | +7.1%  |
| 営業利益                | 2,578    | 2,600    | +0.8%  |
| 売上高営業利益率            | 26.8%    | 25.2%    | ▲1.6pt |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 1,945    | 1,600    | ▲17.8% |
| 売上高当期純利益率           | 20.2%    | 15.5%    | ▲4.7pt |
| 1株当たり当期純利益          | 60.34円   | 49.60円   | ▲17.8% |
| 1株当たり配当金            | 18円*     | 18円      | ±0円    |

\* 2025年12月17日開催の定時株主総会にて決議予定

3

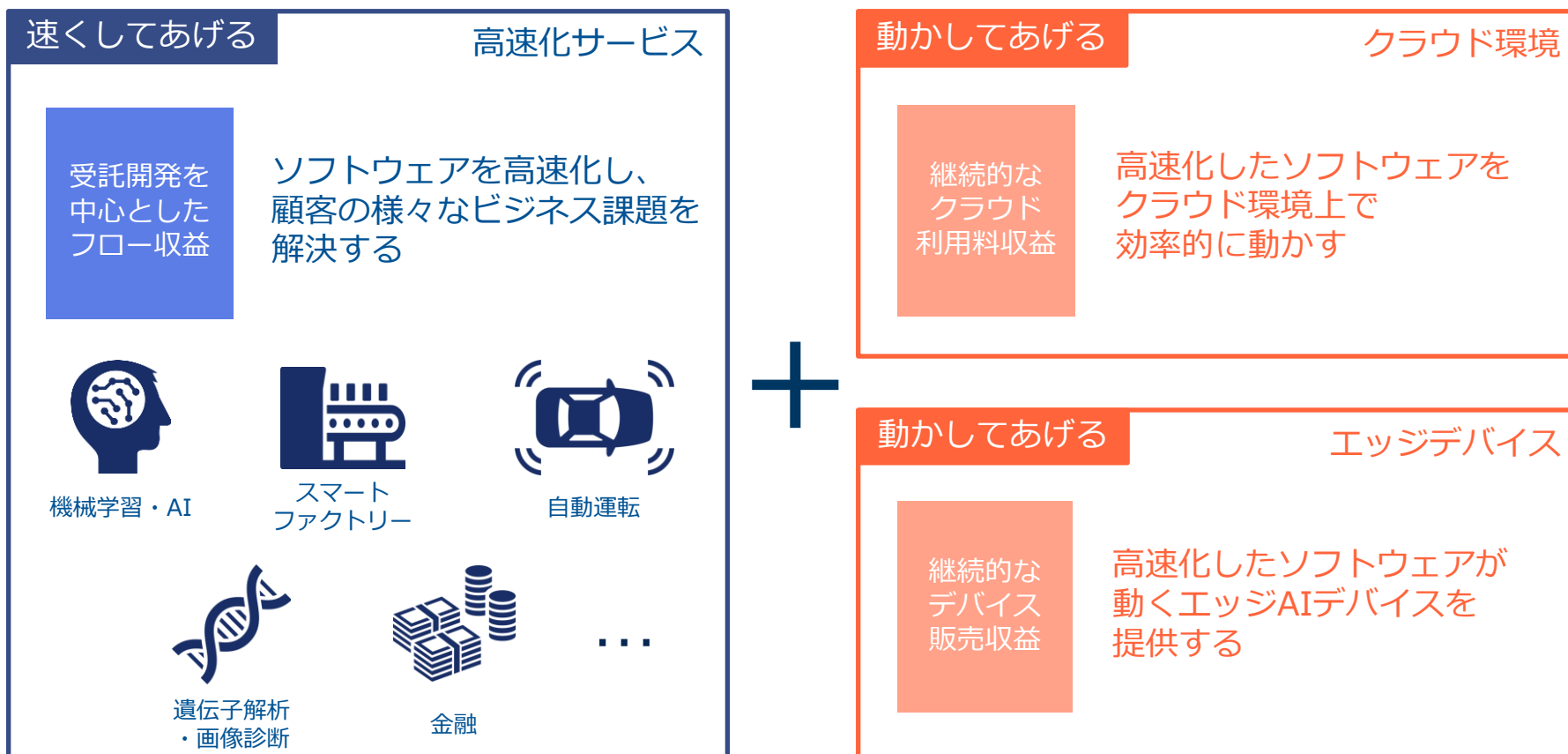
補足資料

3

## 補足資料① 個別事業の状況

## 「速くしてあげる」 + 「動かしてあげる」

主力である受託開発（速くしてあげる）を中心としたフロー収益だけでなく、その動作環境も提供する（動かしてあげる）ことでストック収益を拡大し、より強固なビジネスモデルを構築します。

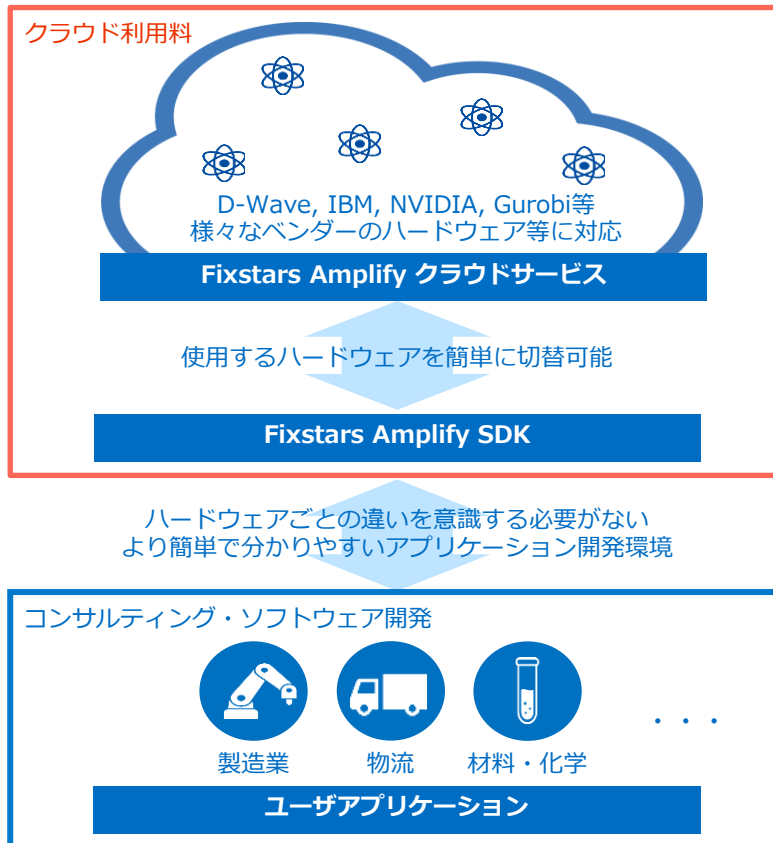


## 実用化が進む「量子インスパイアードコンピューティング」

量子コンピュータの実用化に先駆け、その計算手法を従来のコンピュータに適用した「量子インスパイアード技術」を活用して、複雑な組合せ最適化問題の解決に貢献。

問題解決のためのコンサルティング・ソフトウェア開発等（フロー収益）とクラウド利用料（ストック収益）の両面で事業を推進しています。

### サービス概要



### 事業の状況

- ☑ 「Fixstars Amplify Annealing Engine」の大型アップデートを行い、組合せ最適化問題の求解性能を飛躍的に向上させた最新バージョン「Amplify AE v1.0」の提供を開始
- ☑ ユーザ環境にて設置と運用が可能なオンプレミス版の提供を開始
- ☑ 量子コンピューティングプラットフォームのデファクトスタンダードに向けて順調に推移

### 今後の施策

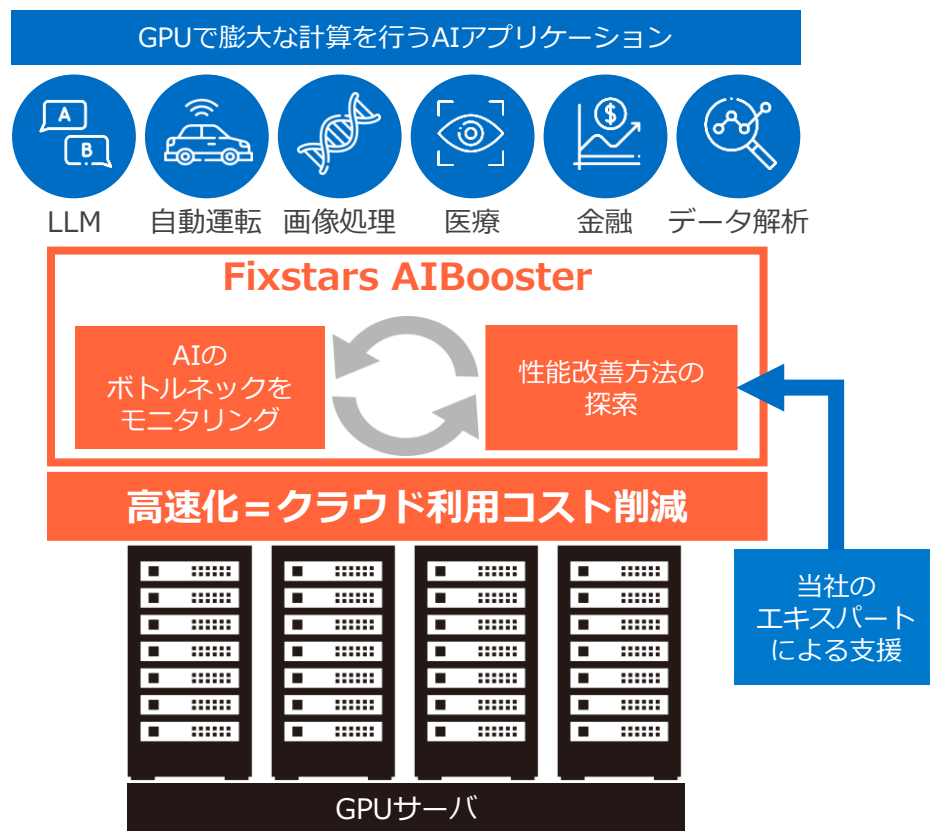
- ☑ Fixstarsグループの各サービスとの連携強化に向けてAIワークロードにおける最適化課題の解決にFixstars Amplifyの適用を検討
- ☑ Amplifyクラウドサービスの拡張を続け、実社会問題への対応領域を広げるとともに、組合せ最適化問題解決のプラットフォームとしてデファクトスタンダードを目指す
- ☑ Fixstars Amplifyクラウドサービスの海外展開に向けた活動

## コスト効率の高いAI開発・運用を実現する パフォーマンスエンジニアリングプラットフォーム

AI開発・運用の現場において不可欠となっているGPU。その高い計算能力を十分に活用できていないケースは少なくありません。

Fixstars AIBoosterによってGPUをより高効率に活用することで、開発期間の短縮、運用コストの低減を実現し、顧客の製品競争力の強化に貢献します。

### サービス概要



### 事業の状況

- ✓ エッジAI推論向け自律最適化機能の追加、パフォーマンス観測機能のSaaS化等によりユーザの利便性を向上した最新版を提供
- ✓ 自動車業界にフォーカスして「Fixstars AIBooster」の導入を加速（バーティカル戦略）
- ✓ Solution事業の顧客リレーションを活用し、AI開発向けに「Fixstars AIBooster」を導入（ホリゾンタル戦略）

### 今後の施策

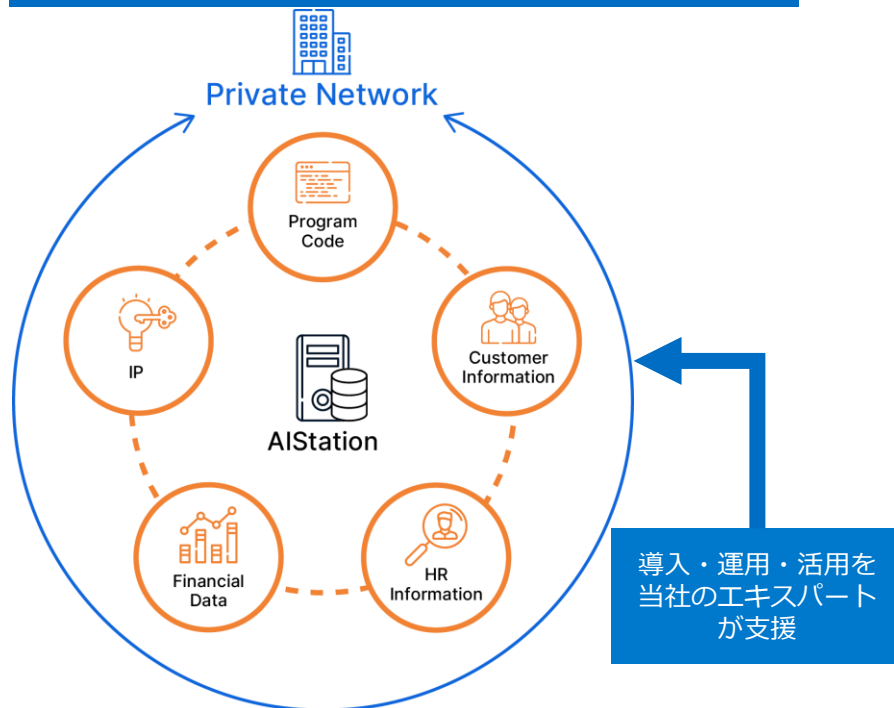
- ✓ 自動車業界を中心としたバーティカル戦略とLLM/AI基盤向けのホリゾンタル戦略を組み合わせた営業活動を推進
- ✓ パフォーマンス改善機能を中心とした製品の機能強化、活用事例の蓄積、知名度向上
- ✓ Fixstars AIBoosterの海外展開に向けた活動

## 届いてすぐにローカルLLMが使えるセキュアなAIオールインワン環境

Fixstars AIStationは、AI処理をすべてローカル環境で実行するため情報漏洩のリスクを減らしつつ最新のAIモデルを活用することができます。  
また検証された最新のLLM/AIモデルとアプリケーションがセットアップ済みのため、届いてすぐにセキュアAIの利用ができます。

### サービス概要

セットアップ済みの専用ワークステーションをレンタルで提供  
(ソフトウェア利用料・サポート費用込み)



### 事業の状況

- ✓ 最新のLLM/AIモデル及び高性能GPUを搭載した「Fixstars AIStation」のレンタル提供を開始
- ✓ 機密性の高い情報を扱うユーザをターゲットに、「Fixstars AIStation」の導入に向けた活動を展開中
- ✓ 株式会社 I - n e との次世代AIエージェント共同研究において「Fixstars AIStation」を活用

### 今後の施策

- ✓ Solution事業の顧客リレーションおよび販売パートナーを活用した営業活動を強化
- ✓ オンプレミス環境でセキュアに実行できる次世代AIエージェント（生成AI＋量子技術＋業務支援）の開発
- ✓ 検証済みAIモデルの拡充、製品の機能強化、活用事例の蓄積、知名度向上

## 乳がんAI画像診断支援事業

乳がんの超音波画像に対し、AIを用いて精密検査の要否を高速かつ高精度に判別し、医師の負担軽減を目指します。  
乳がんの早期発見を支援し、がん発見後も総合的に患者さんをサポートするサービスを提供していきます。

### サービス概要

複数の医療機関でサービス導入に向けた  
テスト運用を実施中

医師 / 検査技師



クラウド等での  
乳がんAI診断支援

将来的な  
診断装置との連動

安心な環境の提供

患者さん



アプリ  
による支援

アプリ  
による情報提供

METIS Eye  
(乳がん超音波画像診断支援)

ePRO<sup>1</sup> / PSP<sup>2</sup> による患者サポート



### 事業の状況

- ☑ AI乳がん検診「Smaopi」の  
メディア発表会&レセプション  
による認知度向上
- ☑ 慶應義塾大学予防医療センター  
で「METIS Eye」の運用を開始
- ☑ 複数医療機関と「METIS Eye」  
のサービス導入に向けて商談中

### 今後の施策

- ☑ 学会・健保組合・クリニック等  
多方面から普及を推進
- ☑ 普及に向けてのブランディング  
強化
- ☑ 海外展開に向けた活動

Note: 1) e-Patient Reported Outcomes: ITを活用して、患者の症状や副作用の状況をモニターするシステム

2) Patient Support Program: 疾病やその治療に関する情報提供、多様な患者ニーズへのサポートなどを通じて、患者のQOL向上に寄与することを目的としたプログラム

4

## 補足資料② フィックスターズについて

## 高速化のエキスパート集団

フィックスターズは、“Speed up your AI”をコーポレートメッセージとして掲げるテクノロジーカンパニーです。

計算資源を最大限に活用するソフトウェア最適化技術を駆使し、AIモデルの推論処理と学習プロセスの両面で圧倒的な高速化を実現する、高速化のエキスパート集団です。

### 概要

|         |                                                                  |
|---------|------------------------------------------------------------------|
| 会社名     | 株式会社フィックスターズ                                                     |
| 本社所在地   | 東京都港区芝浦3-1-1<br>msb Tamachi 田町ステーションタワーN 28階                     |
| 設立      | 2002年8月                                                          |
| 上場区分    | 東証プライム（証券コード：3687）                                               |
| 代表取締役社長 | 三木 聡                                                             |
| 資本金     | 5億5,446万円（2025年9月末現在）                                            |
| 社員数（連結） | 334名（2025年9月末現在）                                                 |
| 主なお客様   | キオクシア株式会社<br>ソニー・ホンダモビリティ株式会社<br>株式会社ネクスティ エレクトロニクス<br>みずほ証券株式会社 |

### グループ体制

#### 株式会社フィックスターズ

##### Fixstars Solutions, Inc.

100%子会社  
米国での営業及び開発

##### 株式会社Fixstars Autonomous Technologies

株式会社ネクスティ エレクトロニクスとのJV  
自動運転向けソフトウェア開発に特化

##### 株式会社Fixstars Amplify

100%子会社  
量子コンピュータ関連のクラウド事業

##### 株式会社Smart Opinion

連結子会社  
乳がんAI画像診断支援事業

##### オスカーテクノロジー株式会社

連結子会社  
ソフトウェア自動並列化サービス

##### 株式会社Fixstars Investment

100%子会社  
ベンチャー企業への投資及び育成を行う  
投資事業会社

##### 株式会社Drone Autopilot Lab

100%子会社  
ドローンの自動運転クラウド事業  
※清算中

## コンピュータの進歩とともに

ハードウェア技術の進化にいち早く対応し、  
その性能を最大限に引き出すソフトウェア開発・高速化サービスとともに成長してきました。

| 年月        | 出来事                                                                       |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------|
| 2002年 8月  | 神奈川県横浜市に有限会社フィックスターズ設立、その後株式会社に組織変更                                       |
| 2004年 7月  | マルチコア技術開発部設立、Cell/B.E.ソフトウェア開発サービス開始                                      |
| 2008年 12月 | GPU高速化サービス開始                                                              |
| 2009年 12月 | 「OpenCL入門ーマルチコアCPU/GPUのための並列プログラミング」を出版                                   |
| 2010年 11月 | 米国空軍研究所に、PlayStation®3を用いた高速クラスタシステムを導入                                   |
| 2011年 10月 | FPGA高速化サービス開始                                                             |
| 2012年 1月  | NANDフラッシュメモリ関連ソフトウェア開発サービス開始                                              |
| 2014年 4月  | 東京証券取引所マザーズ市場に上場                                                          |
| 2016年 11月 | 東京証券取引所市場第一部に市場変更                                                         |
| 2017年 6月  | 量子コンピュータを手掛けるD-Wave社との協業を開始                                               |
| 2018年 2月  | 自動運転分野のさらなる拡大を目指し、ネクスティ エレクトロニクス社と合併会社Fixstars Autonomous Technologiesを設立 |
| 2021年 10月 | 量子コンピューティング領域のさらなるサービス事業拡大を目指し、株式会社Fixstars Amplifyを設立                    |
| 2022年 4月  | 東京証券取引所の市場再編に伴い、東京証券取引所プライム市場に市場変更                                        |
| 2025年 3月  | コーポレートスローガンを「Speed up your AI」に変更                                         |

## コンピュータの恩恵を人々に

計算機器の性能を最大限に引き出すソフトウェア高速化技術とSDK開発技術を軸に、  
コンピュータの活用がより一層進むこれからの世界を支えていきます。

## フィックスターズの高効率なソフトウェアが、 クラウドとエッジの両サイドでコンピューティング基盤を支える世界の実現

ソフトウェアを効率的に動かすことで

- できなかった計算をできる計算にする
- コンピューティングに必要な消費電力を低減する

パー  
パス

ソフトウェア高速化技術

SDK開発技術

ハードウェア・ソフトウェア両方に対する深い理解・知見

コア  
バリュー

## ソフトウェア高速化サービス

当社事業の根幹をなすソフトウェア高速化サービスにおいては、  
ソフトウェアの最適化やアルゴリズム改良等によりコンピュータの性能を最大限に引き出すことで、大量データの高速処理を実現しています。



当社

オリジナルソースコードのご提供

高速化したソースコード



お客様



コンサルティング



高速化



サポート

● 性能評価

● ボトルネックの特定

● アルゴリズムの改良・開発

● ハードウェアへの最適化

● レポート作成

● レポートやコードへのQ&amp;A

● 実製品への組み込み支援

## 高速化技術による環境負荷低減

当社は、多様な産業分野に対する高速化ソリューションにより電力消費を大幅に抑え、環境負荷低減に貢献しています。

## 多様な産業分野における高速化ソリューション

## Semiconductor

- ・ NAND型フラッシュメモリ向けファームウェア開発
- ・ 次世代AIチップ向け開発環境基盤の開発

Mobility<sup>1</sup>

- ・ 自動運転の高性能化、実用化
- ・ 次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

## Life Science

- ・ ゲノム解析の高速化
- ・ 医用画像処理の高速化

## Finance

- ・ デリバティブシステムの高速度化
- ・ HFT(アルゴリズムトレード)の高速度化

## Industrial

- ・ Smart Factory化支援
- ・ マシンビジョンシステムの高速度化

数倍～数百倍の高速化による  
電力消費時間の短縮

電力消費量の  
大幅な削減

環境負荷低減

Note: 1) 一例として、自動運転向け画像認識処理の高速化（1車種）のみでも、2020年に約14,000トンのCO2削減が見込まれる（当社推計）

## 高速化に限らない様々な社会貢献

高速化ソリューションによる消費電力削減に加え、自動運転や医療等の様々な分野への支援により、環境や社会の課題解決に貢献しています。

## 当社事業領域

## 社会的価値



自動運転の高性能化、実用化  
次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

交通事故の根絶  
交通弱者へのサポート



AIによる画像診断支援

より気軽により質の高い  
診断・治療へのアクセス



量子コンピューティングによる生産性の向上、労働の効率化

カーボンニュートラルへの貢献

